2015年・平成27年　センター漢文解説（本試験）

準拠『早覚え速答法』

※文中数字56は『早覚え速答法』の56ページを、m4は『センター漢文攻略マニュアル』の4ページを示す。

【出典】程敏政『篁墩（こうとん）文集』より。程敏政（1445年～1499年）は明朝の政治家、学者。十歳の時「神童」として推薦され、時の皇帝自身による試験の結果、優秀とされる。二十一歳の時、科挙（高級官僚登用試験）に第二位の成績で合格。その後博識の官僚として活躍するが、科挙の責任者の地位にあった五十四歳の時、試験問題を漏らしたという嫌疑をかけられて入獄。疑いは晴れたが、出獄後、憤怒のあまり「癰（よう）」という悪性のできものにより死去。

（『明史』列傳第一七四文苑二より）

【現代語訳】

（事例1　血縁のない母猫と子猫）

わが家（や）では以前から猫を一匹飼っている。その猫が出産するころ、女の子があやまってぶつかり、猫は流産した。猫は一日じゅう鳴いて悲しんでいた。その時ちょうどある人が子猫を二匹くれた。初めは（猫も子猫も）お互いによそよそしく仲が悪いように思われた。そこで猫は子猫を撫（な）で、うろうろしたり、足踏みをしたりして、子猫が寝ればこれを抱き、子猫が歩（あゆ）めばこれを支え、うぶ毛をなめ、自分の餌を与えた。

子猫たちも同じように、時が経つと（猫と血のつながりがないことを）忘れてしまった。次第に猫のそばを離れなくなり、最後にはその乳を飲んだ。この時から、子猫はこの猫を実の母と思ってうれしそうにまとわりつき、猫もまた子猫たちを本当のわが子と考えてゆったりとかまえていた。まことに驚くべきことである。

（事例2　血縁のない母と子）

むかし、漢の明徳馬后には子がなかった。顕宗は他の妃の子を引き取り、馬后にその養育を命じて言った。「子は必ずしも自分で産む必要はない。悩むべきは子への愛情が足らないことだけだ。」そこで馬后は心を込めて養育し、（養子の）章帝にも生まれつき親を大事にする心が備わっていた。母は子を慈（いつく）しみ、子は母に孝養を尽くし、二人の間には生涯にわたってわずかな隔たりもなかった。（このことは）わが家の猫の場合とちょうど同じだ。

（結論）

そう考えると、今の世の親子で、子を愛さない親および親に孝行しない子は、古人に対して恥ずかしいだけでなく、この動物に対しても顔向けできないのだ。

【書き下し文】　※音読のため、ルビと送りがなの歴史的かなづかいは今のかなづかいに変更。

家に一(いち)老(ろう)貍(り)奴(ど)を蓄(やしな)う。将(まさ)に子を誕(う)まんとす。一(いち)女(じょ)童(どう)誤りて之(これ)に触れ、而(しこう)して堕(だ)す。日(じつ)夕(せき)鳴(お)鳴(お)然(ぜん)たり。会(たまたま)両(りょう)小(しょう)貍(り)奴(ど)を餽(おく)る者有り。其(そ)の始め、蓋(けだ)し漠(ばく)然(ぜん)として相(あ)い能(よ)くせざるなり。

老貍(り)奴(ど)なる者、従(したが)いて之(これ)を撫(ぶ)し、徬(ほう)徨(こう)焉(えん)たり。躑(てき)躅(ちょく)焉(えん)たり。臥(が)すれば則(すなわ)ち之(これ)を擁(よう)し、行けば則(すなわ)ち之(これ)を翊(たす)く。其(そ)の氂(じょう)を舐(な)めて之(これ)に食を譲る。

両(りょう)小(しょう)貍(り)奴(ど)なる者も、亦(ま)た久しくして相い忘るるなり。稍(ようや)く之(これ)に即(つ)き、遂(つい)に其(そ)の乳を承(う)く。是(こ)れより欣(きん)然(ぜん)として以(もっ)て良(まこと)に己(おのれ)の母なりと為(な)す。老貍(り)奴(ど)なる者も亦(ま)た居(きょ)然(ぜん)として以て良(まこと)に己(おのれ)が出(いだ)すと為(な)すなり。吁(ああ)、亦(ま)た異なるかな。

昔(むかし)、漢の明(めい)徳(とく)馬(ば)后(こう)に子(こ)無し。顕(けん)宗(そう)他(ほか)の人(じん)子(し)を取り、命じて之(これ)を養わしめて曰(い)わく、「人(じん)子(し)何ぞ必ずしも親(みずか)ら生(う)まん。但(た)だ愛の至らざるを恨むのみ。」と。后(こう)遂(つい)に心を尽くして撫(ぶ)育(いく)し、而(しこう)して章(しょう)帝(てい)も亦(ま)た恩(おん)性(せい)天(てん)至(し)たり。母(ぼ)子(し)の慈(じ)孝(こう)、始終纖(せん)芥(かい)の間(かん)無し。貍(り)奴(ど)の事、適(たまたま)契(かなう)う有り。然(しか)らば則ち世(よ)の人(じん)親(しん)と子(こ)と為(な)りて、不慈不孝なる者有るは、豈(あ)に独(ひとり)古(こ)人(じん)に愧(は)づるのみならんや。亦(ま)た此(こ)の異(い)類(るい)に愧(は)づるのみ。

訳注　正確な訳を期するため、翻訳の根拠を付記しましたが、受験生は☆で囲んだ**必要知識**の所だけ注目し、忘れていればただちに復習してください。

参照辞書(大漢和辞典、在线新华字典、百度百科)

老――「年老いた」という意味もあるが、「前からいる」という意味もある。たとえば「老朋友」は「年老いた友人」ではなく、「昔からの友人」である。ここでは後者の意味として訳した。

「老猫」という訳は「年老いた猫」を連想させるので正確とは言えない。しかし、問題文における「老猫」という訳は、学力試験用の訳としては支障がない。

堕――出産する。ここでは「堕胎…又、出産期に至らない前に、衝激を受けて、胎児が死んで生まれること」(大漢和辞典)という解説も参考にして「流産する」と訳した。

両――ふたつの

蓋(けだ)し――ここでは「～のように思われる」の意味。

☆センター試験で問題とする**「蓋し～＝思うに～」**は、

1事実の説明↓↓↓　2蓋し＝思うに　↓↓↓3筆者の結論

という順で使われ、**「蓋し」の直後からは一般論や理論が述べられて結論となるのが通例**[146]☆。問題文の筆者の著作『篁墩(こうとん)文集』でもそのような用例がほとんどである。しかし、この問題文の「蓋」は「おおむね～だろう」の意味。したがって、設問になっていない。

漠――冷淡。無関心。

不相能：相(あ)い能(よ)くせず――仲が悪い。

従而：従いて――そのために。その結果。日本語の観点からは置き字とする「而」まで含めて考えるのは、原文は中国語であり、その正確な訳を追求するため。

久而～：久しくして――しばらくすると～。「しばらく～」という訳ではない。だから訓読も「久しく」ではなく、「久しくして」となっている。用例から判断すると、「久而～」は「一定時間の経過後に、ある事態が起きること」を示す。

相忘：相い忘る――離れてしまってお互いのことを忘れる。出典は『荘子』(大宗師)の「相忘于江湖：江(こう)湖(こ)に相い忘る」と思われる。ここでは、「お互いに(血のつながりがないことを)忘れる」と訳した。

天至――生まれつき。

契――ぴったり合う。

異類――別種のもの。

已――文末の「…已。」は「のみ」と訓読する。試験には出ない。「のみ」は限定「～だけ」だが、限定は「～だけしかないのだ。」という強調的意味も含む。問題文の訳としては「だけ」でなく「だ。」を採用した。理由は別記 http://kanbunhoi.web.fc2.com/nomi.htm したが、受験には無関係。

解説　※38.7は問題文p38の7行目を表す。

筆者の主張をつかむ

【ステップ1】　最初の2行を読む

早読みは　最初と最後に　主語述語m9により主語と述語だけを読もうとしたが、結果としては次のように述語から主語を推測することになった。

1行目　[主]（貍奴(りど：猫)注1が）

[述1]子を誕(う)まんとす

[述2]堕(だ)す

[述3]嘆き悲しんで鳴く注1

「堕(だ)す」は熟語[堕落→堕＝落]から「おちる」の意味だろうか。でも「堕胎(だたい：胎児をおろす)」という熟語もあるから、「おろす」か。いずれにせよ、[述1]と[述3]から[述2]＝「流産した」と考えると

[子を産まんとす→流産した→悲しんで鳴く]

となってつじつまが合う。

2行目　小貍奴を餽(おく)る者有り

[対比に注意！]m12により、次の関係だけがわかった。

老貍奴←→小貍奴　(老猫←→子猫)

2行目の残りはよくわからないので、ステップ2に飛んだ。

【ステップ2】　最初の3行を読む

末尾の「異類」は「人類」と異なる類なので、冒頭の「貍奴(ネコ)」だろう。でも、傍線Cが読めないので、読むのを中止。

【ステップ3】　最終設問の選択肢を見る

問7　{熟}{注}{主張}

三つのステップで共通の言葉を探そうとしても、ステップ2からの収穫はゼロだ。1・2行目と選択肢を照合すると、

×①猫の親子　∵1行目により、老貍奴と小貍奴は実の親子ではない。

◎②血のつながらない猫同士　∵老貍奴と小貍奴の両方がある。

○③④子猫・老猫

○⑤もらわれてきた子猫　∴小貍奴だけについて述べている。

共通点の多さ(血縁なし＋老猫＋子猫)から②を正解候補としたいが、1・2行だけでの判断なのでおおいに不安。そこで「段落でも…最初と最後で　筆者は主張」という大原則m57を使い、後半の段落の最初38.7を見ると、

明徳馬后に子(こ)無し…他の人子(じんし)を…養はしめ

←

注9　他の…子を引き取って、明徳馬后に養育を託した

とあるので、馬后と「他の人子」に血縁関係はなく、共通点も[血縁なし＋馬后＋子]で同じだとわかった。そこで②を正解候補とした。

筆者の主張は「血のつながらない猫同士」②に関するもの。これしかわからないが、これで十分。これが大事。ここで退却して1行目に戻る。

問2〔漢〕

(ア)　コレだけ漢字158・159より、「将＝且　まさに～んとす」なので正解は④。

問1〔熟〕

(1)熟語で訳して正解つかむ172により、「承」を次のように言い換えて正解に至る。

承

←ほぼ同じ意味の熟語で訳す

承＝諾

←もう一度、ほぼ同じ意味の熟語で訳す

受＝諾

←　他の言葉に言い換えて受験生の目をゴマカス

受け入れる⑤

問2〔漢〕(イ)　コレだけ漢字162のとおり、[自＝従：より]で正解は④。

問4〔漢〕〔対比〕

[対比に注意！]m12により、

老狸奴←→小狸奴

の対比であることはわかるが、その前に、傍線部Aの直前行の「以為」の正確な訳が問われている。コレだけ漢字143「以為」は、ここでは「以て～と為す/～と思う」。するとかんたんな訳は次のとおり。なお、「出(い)だす」6行目は熟語を使って訳すと、

出す→産＝出 or 出＝産→産(う)む

となり、「子を産む」の意味。こうしておいて対比を確認すると次の通り。

(小狸奴は)　欣然としてまことにおのれの母なりと思う。

老狸奴…も…居然としてまことにおのれが産んだと思う。

すると、

小狸奴＝子猫＝欣然←→老狸奴＝老猫＝居然

なので、「子猫…欣然」の③以外は次のようにキズがある。

①老猫…欣然　②猫たち…居然　④子猫…居然　⑤老猫は…深い悲しみ

ただし③にもキズがある。問題文の内容は、血のつながらない猫同士であっても、最終的に、子猫はよろこび(欣然)老猫もやすらか(居然)になったので、A「ああ、また異なるかな(なんと驚異(驚くべきこと)ではないか！)」と筆者が感動している、というもの。だから「傍線部A…のように述べる理由として…もっとも適当な」問4解答は、

子猫＝欣然　老猫＝居然

の二要素を含んでいなければならない。ところが③は子猫だけだ。でも他の選択肢のキズが明瞭なので、選択肢としては③が正解。おそらく、出題者は字数の関係で「老猫＝居然」を盛り込むことができなかったのでしょう。問題作成上はしかたがないことだと思います。

問5　〔ンヤ〕〔熟〕〔注〕

「何必」は「何ぞ必ずしも～：どうして絶対に～か、必ずしも～ではない」という反語83。すると正解候補は、①「ではない」②「必ずしも」④「ではない」。

次に傍線部Bの「生」を熟語で訳すと、

生→生＝産→産む

となり、④「産んだ」が正解か。注9を使って傍線部Bの前後を確認すると、

他の…子(の)養育を明徳馬后に託し注9(て)言った

「子…は、自分で産んだかどうかが大事なのではない(子への)愛が至らないことを後悔するだけだ」

となるので、話のつじつまは合う。そこで制限時間内では④にマーク。以下は解答後の整理。

正解は正確な訳で作られる m19

という原則から④を検討すると次のとおり。

「親」は「みずから」と読み、「自分で」の意味。日本では使わない「親自」という熟語もある。このことを知っている必要はない。まず傍線部Bを機械的に翻訳し、順次言い換えると、次のようにして④に至る。

B　人子(じんし)何ぞ必ずしも親(みずか)ら生まんや

←

機械的翻訳　人間の子、どうして絶対に自分で産むか。必ずしもそうではない。

←

言い換え1　子というものは必ずしも自分で産む必要はない。

←

言い換え2　子というものは、自分で産んだかどうかが大事なのではない④

ヒッカケ選択肢①について。出題者は傍線部B「生」の訳をネジマゲて、「いる」①としたのだろう。「存=在」や「有」なら「あリ」と読むので、「いる」と訳せるが、動詞の「生」は「生(い)く・生きる」「生む」「生(は)える」しか読めない。

②「〜の思い通り」に対応する原文の漢字はない。もしかすると出題者は傍線部B「生」の訳を次のようにネジマゲて誤答を作ったのかもしれない。

親生→親の生(なま)≠親のまま→②「親の思い通り」

問1（2）〔熟〕

熟語で訳して正解つかむ[172]。「適」についてほぼ同じ意味の熟語を作ると、次のようにして正解に至る。

適→適=合または適=当→ぴったり・ちょうど③

問6〔ンヤ〕〔ノミ〕〔漢〕

「豈」は「あに〜んや」[57]反語、「独」は「ひとリ〜のみ」[94]限定。しかも「みんな忘れる語尾のノミ」[94]により「のみ」は語尾に来るから、①③④の「のみを…んや」ではなく、語尾に近い「のみならんや」②④が正解だろう。さらに「のみならんや」は重要な**いがよみ**[96]なのでまちがいはない。

漢字「与」は「与(あた)ふ」ではなく、「AとB与(と)」[154]と読む方が正解だろう。

人親(じんしんト)与(と)子(レこ)

そこで制限時間以内では⑤にマーク。以下は解答後の整理。

1　傍線部C「為」を「為す」[②]と読むのであれば、5行目のように「以為：以て為す：〜と思う」となっているはず。しかし傍線部Cの「為」の上には「以て」がない。

2　［対比に注意！］m12により、問題文は次のような対比で主張が展開されている。

老貍奴←→小貍奴 38.1〜2

明徳馬后←→章帝 38.7〜8

母←→子 38.9

(子への)慈愛←→(親への)孝行 38.9

不慈←→不孝 39.1

人親←→子 39.1

だから傍線部C「人親与子」は「人親と子と」⑤であり、「人親の子に与ふ」②はありえない。

3　「独：ひとり～のみ」は「惟：ただ～のみ」限定と同じ限定の言葉なので、次のように基本句形を言い換えると傍線部Cの「豈独」の読みになる。

豈(あ)に惟(た)だに　Aのみならんや　累加の句形96
←
豈(あ)に独(ひと)り　Aのみならんや　Aだけだろうか。いやAだけでなく

ここで誤解を解いておく。私が『早覚え速答法』において「『累加』で入試に出るのは次のものだけ」96と述べているので、「豈惟」だけじゃなく「豈独」も出たじゃないか、うそつき！という非難が私に届いている。

たしかに「豈独」が出た。しかし「豈独」を知らなくても「**のみならんや**」といういがよみで問題には対処できる。だから私は言い続ける。「入試に出るのは次のものだけ」と。あとは覚えなくていいんだ。勉強しなくていいんだ。最小の知識で試験に勝つ。それが大事だからだ。試験科目は

豈(あ)に独(ひと)り漢文のみならんや　漢文だけだろうか、

いや、違う。英語もあるし、数学もある。漢文のような周辺科目に時間を割(さ)いてほしくない。だから私は言い続ける。「出るのは次のものだけ」と。

問3〔漢〕

不用な知識を持たない受験生にとっては簡単。

「矣」は漢文では読まない字(置き字)だ。**置き字は覚えなくてもよい**。[70]試験に出る漢字ならこれダケ漢字に収録している。そして「矣」は漢字リストにない。だから①②は消える。

文末の「也」は「なり」と読み、「断定」の意味しかない。「なり」に「伝聞」の意味があるのは日本の古文でのこと。だから③が消える。

④について、「耳」は「のみ」と読む限定[95]だ。これダケ漢字には「而已(のみ)」はあるが、「已(のみ)」がないので⑤を切って④が正解。大学受験では余計な知識を知っている必要はない。以下は解答後の整理だが、あくまでも参考知識であり、**おぼえる必要はない**。

a「矣」は詠嘆・感動を表し、「漢文ではとくに訓読しないが、文脈によって、…せん、…ならん、などと読むこともある。[p903 学研漢和大字典、藤堂明保編、学習研究社、1981]」

たとえば、「已矣。」は「已(や)んぬるかな：もう終わりだ！」と読むが、「矣」を「かな」と読むのではない。大部の労作『大漢

和辞典』諸橋轍次他でも「かな」という読みで掲載するのは「哉」だけである。したがって、標準的な漢文では「矣」に読みはない。

d　文末の「焉」には「断定」「感嘆」などの用例はあっても「意志」で訳せるような文例はない。（『在线新华字典』より）そこで、④の「断定」は正しいが、⑤の「意志」はありえない。

e「已」について。文末の「已。」は「而已(のみ)矣」「而已(のみ)」157の省略形と思われ、「のみ」と読む。しかし、大学受験でこの読み方を知っている必要はない。センター試験は些末(さまつ)な知識を問わない。

問7〔主張〕〔対比〕

最初の作業で検討した正解候補は②だったが、

正解は正確な訳で作られる m19

ので、問6でつかんだ⑤の書き下し文から確認すると次のとおり。

C人親と子と為りて、不慈不孝なる者有るは

←

親と子であって、(子に)慈愛でなく(親に)孝行でない者がいるのは

←

②互いに愛情を抱きあえない親子がいることは

C古人に愧(は)づるのみならんや　亦た此の異類に愧(は)づる

←

古人にはづるだけでなく、この猫にもはづる

←

古人に対して恥ずかしいだけでなく、この猫に対しても恥ずかしい

←　恥ずかしい＝嘆かわしい

②古人はおろか猫の例にも及ばないほど嘆かわしい

以下は解答後の整理。

[今の世はまちがっている！]m13により、Cの「世」は非難の対象。だから②「嘆かわしい」④「いたたまれな(い)」⑤「恥ずかしい」は適当だが、①「信じたい」③「[主]愛情は…[述]深い」は不適切。

また、③については

早読みは　最初と最後に　主語述語 m9

により、③の最初の主・述

「[主]老猫の悲しみは　[述]癒され…なかった」

と、問題文の前半の最後の主・述

「[主]老狸奴なる者も…[述]居然(やすらか)注7」38.5

を比較すると次のように反対。

③「癒されなかった」←→「やすらか」38.5

④には、老狸奴と小狸奴、明徳馬后と章帝がともに「血縁を欠く」という点がない。これが致命傷。

最初と最後で筆者は主張 m9

異類＝人類と異なる類＝狸奴＝猫

が論文の大原則であり、前半の最初(老貍奴と小貍奴に血縁なし)と後半の最初(明徳馬后と章帝に血縁なし)は筆者の主張の重要部分だ。

⑤は、子についてだけ述べて母に言及していないのがキズ。血のつながらない「母と子」が主張の根幹であり、「母と子」から「母」を抜いたのが⑤。だからこそ、

ヒッカケは　主張をずらして　作られるm91

以上